

ある日、お釈迦さまは托鉢のために、とある農家の家の前で立ち止まりました。すると、その家の主人が出てきて、お釈迦さまの前に歩み寄り、声を荒げて詰問したのです。

「私たちは、汗を流しながら、田を耕し、種をまき、労働をして食事を得ているのに、あなたは、労働することなく食事を得ようとしているが、それでよいのか。」

お釈迦さまは、答えました。

「私もまた、田を耕し、種をまき、それを収穫して食事を得ているのです。」

主人は、その答えに啞然とし、こう続けました。

「しかし、私はあなたが田を耕したり、種をまく姿を見たことがない。いったい、あなたの鋤や牛はどこにあるのだ。どんな種をまくのだ。あなたの言う、耕すとはどういうことなのだ。」

お釈迦さまは、静かに語りました。

「人間が耕さねばならないのは、大地ばかりではない。人間は自分自身を耕さなければなりません。」

それは、智慧という鋤で耕し、そこに信仰という種をまく。そして、身体と言葉と心によって生じる悪業を草取りのように取り除くのです。わたしのひく牛は、精進という牛です。この牛は、まっすぐ進み続け、戻ることなく、私たちの心を安らぎの境地に運んでくれます。そこで収穫するのは、さとりという果実です。人々は、それを食べることによって、一切の苦悩から自由になることができるのです。」

この説法を聞いた主人は、その場で信者となり、終生変わることなく仏教へ帰依しました。

この話には、お釈迦さまの教えの本質が具体的に述べられています。

お釈迦さまの教えにはたくさんの智慧があります。その智慧により信仰を確立し、精進し続けることにより、さとりを得ることができるのです。それはすべて、正しい思想と実践による、自己の人間形成への道なのです。

皆さまの身近にある仏教は、お葬式や先祖供養ではないでしょうか。それらもすべてお釈迦さまの智慧の中にあるのです。

皆さまの信仰の中に、お釈迦さまの説かれた、自己の人間形成の道があるのです。